

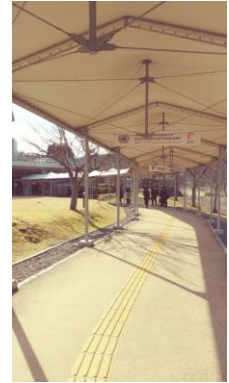


## 京都コンGRESS見聞録

ACPF 会員 弁護士 佐藤 建

2021年3月7日(日)午後、宝ヶ池のほとりで穏やかな日の光に包まれていた京都国際会館は、いつも以上に静まりかえっていました。

この日から始まった国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンGRESS)の会場参加枠を運良く割り当てて頂きましたので(吉田事業部長、ありがとうございます!)、せっかくだから初日から見物に行こうと会場である京都国際会館の最寄り駅に降り立ったのですが、人っ子一人いない通路を歩いて辿り着いた会場の周辺は、警察官を時折見かけるくらいで、とても静かでした。

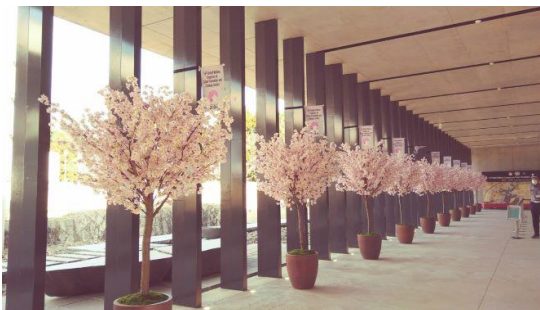


会場への通路

本当にここでコンGRESSをやっているのだろうか、と半信半疑で(駅からの通路にはポスターがずらっと貼ってありましたので開催していることは疑っていませんでしたが)会場の入口に向かうと、桜の花をあしらった豪華な装飾や屏風など和の雰囲気が満載の世界が広がっており、コロナ禍での様々な障害を乗り越えて来日した外国からの訪問団をお出迎えしよう、という気概を感じました。



駅通路の壁 ポスター



桜の装飾



会場入口前の屏風

コンGRESSの会場は展示ゾーンと会議ゾーンに分かれており、展示ゾーンでは我々がアジ研の活動を紹介する展示ブースのほか、矯正施設の建築協議会(ACCF A)や篤志面接委員



ACPF 会員グローリーも展示

連合会など刑事司法に関係する団体、最先端の技術を利用した警備システムなどを展示する企業のブースが並び、その近くには来場者にお茶を振る舞う茶席なども設けられています。



展示会場



茶席



受付ブース

会場内の警備は本場UNから来た警備スタッフが統括しており、展示ゾーンから会議ゾーンへの立入には別途の許可が必要となるなど(吉田事業部長、その節は大変お世話になりました!)国際会議らしい厳しさがありませんでしたが、会場の片隅に設けられたお土産コーナーでは浴衣や扇子など(修学旅行生向けのよう)なお土産をUNの警備スタッフが買い求める微笑ましい光景も見られました。

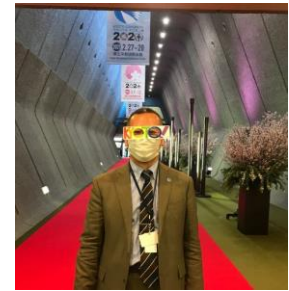
今回はオンラインでの参加者も多く、会場での参加者は数えるほど、という会議もありましたが、3月10日(水)午後で開催されたフォローアップ(アジ研同窓会)は、会場の席がほぼ埋まるほどの大盛況で、160回国際研修(2015年)でお世話になりました山下輝年さん(当時はアジ研所長)や語学アドバイザーのトーマス・シュミッドさん、同研修で一緒させて頂いた浦岡修子さん(検察官)、さらには122回国際研修(2002年)でお世話になりました染田恵さん(当時はアジ研教官)がお見えになっており、旧交を温めるよい機会となりました。また、オンラインでも国内外の同窓生が参加されており、122回研修で海外専門家としてお世話になりましたフィリピンのガーニャさんの元気な笑顔を拝見することができました。

国際協力を進めるためには、互いに顔の見える関係を築くことが重要だと思います。今回の同窓会やコンGRESを通じて、アジ研やACPFの活動が国際協力の推進に果たす役割が大きいことを改めて実感しました。

最後にこの場をお借りしまして、このような機会を頂きましたACPFの皆さまに改めて御礼申し上げます。

最後にこの場をお借りしまして、このような機会を頂きましたACPFの皆さまに改めて御礼申し上げます。

以上



マスク姿に記念グッズを身に着けると・・・



佐藤と山下事務局長



ガーニャ氏のオンライン参加